



寿町での炊き出しボランティア(筆者 前列左から2番目)

文学部人間学科の「人間学特殊研究」という授業では、講義を通して貧困とその支援について思想、社会的環境、法律、倫理などさまざまな角度から学びました。また、学んだことを生かし、実際に横浜市寿町で炊き

出しました。炊き出しでは、雑炊を作る中で「美味しく栄養のあるもの」という気配りがされていることに感動しました。また、炊き出しを待つ人の多さに驚きました。「一番心に残っていることは、「こんにちは」と挨拶

出しと福祉作業所でのフィールドワークを行いました。講義では、学外からの講師の方も招き、貧困とその支援の現場の課題について貴重なお話を伺いました。私は、「貧困」についてほとんど知識を持っていなかったため、多くのことを初めて知りました。特に、路上生活者の方へ偏見を持っていたこと、貧困について理解が足りなかったことについて反省をしました。

をしただけで「元気をもらった」と言ってくれた方のことです。寿町には、温かい言葉をかけてくださる方が多くいらっしゃいました。私が訪問した「ことぶき福祉作業所」では、皆さんが私たちを温かく歓迎してくださいました。この作業所では、肢体障害・知的障害・視聴覚障害などを持つご年配の方が受注作業を行っています。作業所の方々は、優しく説明をしてくださり、冗談を交えた楽しいお話を聞かせてくださいました。どの方も作業がスムーズで障害を持っていないことを全く感じさせず、熱心でした。また、手作りのしおりをいただきました。とても感激しました。

炊き出しの経験は、今回が初めてでしたし、講義で学んだ知識は多少ありましたが、いざ当日になると緊張や不安がありました。この授業を受け、自分の生活とは疎遠だと思っていた世界を知ることができました。また、貧困が世代を超えて受け継がれていくことや一度貧困に陥ると、そこから自力で抜け出すことは難しいことなどを知りました。貧困の深刻さを心にとめて、今までのためらっていたボランティア活動への参加に積極的に取り組み、今、自分にできることは何かを追求していきたいと考えています。